

Excel2019 中級

Hardware

Software

Operating System

Application

Mouse

Key Board

Hard Disc

Floppy Disc

CD-ROM

MO

Memory

Word Processor

Spread Sheet

Data Base

Internet

WWW

Homepage

E-mail

Network

.....etc.




資格の学校
TAC

はじめに

用語について

本文中では、「Microsoft® Excel 2019」のことを、「Excel」または「Excel2019」と表記しています。

本文中の表記について

表 記	説 明
()	引用、他の表記、セル番地
【 】	重要な用語、機能名
「 」	フォルダー名、ファイル名、シート名
『 』	入力箇所、選択箇所
《 》	ウィザード名、ダイアログボックス名、ウィンドウ名、メッセージボックス名
[]	タブ名、リボン名
 Check!	操作上の注意点など
One Point	補足説明、手順に説明された方法以外の操作など
囲み文字	ダイアログボックス・ウィザードのボタン名、キーボード名

動作環境について

本書は、以下の環境にて制作しています。

- OS : Windows 10 Enterprise
- アプリケーションソフト : Microsoft Office Professional Plus 2019
- 画面解像度 : 1920×1080 ピクセル

※環境によっては、画面の表示が異なる場合や、機能が操作できない場合があります。

ライブラリ（フォルダー）「ドキュメント」について

本書のライブラリ（フォルダー）「ドキュメント」は、Windows 10 を初期設定の状態で、作成されたものとして記載しています。

目次

◇ Excel2019 中級1 ◇

第1章	複数ワークシートの操作	1
1-1	第1章完成例	
1-2	シートの移動とコピー	
1-3	グループ	
1-4	3-D 参照	
1-5	3-D 集計	
1-6	第1章の復習	
第2章	ワークシートの編集	25
2-1	第2章完成例	
2-2	書式の設定	
2-3	貼り付け機能	
2-4	クリア機能	
2-5	条件付き書式	
2-6	第2章の復習	
第3章	関数の利用	61
3-1	第3章完成例	
3-2	関数について	
3-3	統計関数 — RANK.EQ —	
3-4	論理関数 — IF・IFS・AND・OR —	
3-5	日付関数 — TODAY・DATEDIF —	
3-6	検索/行列関数 — VLOOKUP —	
3-7	数学/三角関数 — ROUND —	
3-8	第3章の復習	

目次

◇ Excel2019 中級2 ◇

第4章	グラフの活用	95
	4-1	第4章完成例
	4-2	円グラフ
	4-3	複合グラフ
	4-4	スパークライン
	4-5	第4章の復習
第5章	データベース機能	121
	5-1	第5章完成例
	5-2	データベースとは
	5-3	並べ替え
	5-4	小計
	5-5	フィルター
	5-6	ウィンドウ枠の固定
	5-7	第5章の復習
第6章	印刷機能	149
	6-1	第6章完成例
	6-2	ページ設定
	6-3	改ページ
	6-4	印刷範囲の設定
	6-5	第6章の復習
付録		167
	付録-1	付属 CD-ROM の使い方
	付録-2	演習問題

第3章

関数の利用

統計関数、論理関数、日付関数、検索/行列関数、数学/三角関数など代表的な5つの関数について学習します。

3-1	第3章完成例	62
3-2	関数について	64
3-3	統計関数 — RANK.EQ —	66
3-4	論理関数 — IF・IFS・AND・OR —	69
3-5	日付関数 — TODAY・DATEDIF —	78
3-6	検索/行列関数 — VLOOKUP —	82
3-7	数学/三角関数 — ROUND —	89
3-8	第3章の復習	92

3-1 第3章完成例

ファイル「第3章」を開き、シート「成績一覧」がアクティブシートであることを確認しましょう。

<完成例>

採用試験判定基準											
										実施日	2019/8/4
受験番号	氏名	生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	判定2	
M-101	安藤洋和	1997/5/1	22	65	71	65	201	11	良	合格	
M-102	大場貴男	1995/6/24	24	82	69	71	222	6	優	合格	
M-103	神田一郎	1995/10/4	23	83	70	61	214	8	良		
W-104	黒田正代	1996/8/8	22	65	83	79	227	4	優	合格	
M-105	佐々木友彦	1992/7/30	27	91	79	73	243	2	優	合格	
M-106	佐藤貞男	1997/4/28	22	85	98	51	234	3	優		
W-107	島田和子	1993/9/22	25	75	69	55	199	12	可		
W-108	鈴木信子	1993/5/1	26	66	83	63	212	9	良		
W-109	千葉俊子	1994/2/5	25	70	70	69	209	10	良	合格	
M-110	富永明夫	1993/1/31	26	77	70	69	216	7	良	合格	
W-111	中島喜枝	1991/11/15	27	51	63	71	185	14	可		
W-112	野口和美	1994/5/8	25	51	65	73	189	13	可		
M-113	福田佳雄	1995/7/25	24	71	85	69	225	5	優	合格	
W-114	吉田直子	1992/9/3	26	83	69	92	244	1	優	合格	
平均点				72.50	74.14	68.64	215.29				

TODAY

RANK.EQ

IFS

IF・AND

DATEDIF

ご請求書					
発行日					
株式会社町田事務機 御中					
株式会社品川サプライ					
東京都品川区大崎×-×-×					
TEL 03-3000-0000					
FAX 03-3000-0000					
担当：湊					
御請求額		¥2,689,500			
商品コード	商品名	単価	数量	金額	
A-104	ノートパソコン	¥330,000	6	¥1,980,000	
C-302	スキャナー	¥30,000	3	¥90,000	
F-602	CD-RWドライブ	¥15,000	25	¥375,000	
小計				¥2,445,000	
消費税				¥244,500	
合計				¥2,689,500	

VLOOKUP (FALSE) IF

ROUND

	A	B	C	D	E	F	G
1		顧客管理					
2							
3		お名前	10月	11月	12月	買上計	金券額
4		安藤洋和 様	32,000	71,000	6,500	109,500	10,000
5		大場貴男 様	28,000	6,900	71,000	105,900	10,000
6		神田一郎 様	13,000	7,500	61,000	81,500	5,000
7		黒田正代 様	62,000	83,500	7,900	153,400	15,000
8		佐々木友彦 様	5,400	79,000	7,300	91,700	5,000
9		佐藤貞男 様	8,200	9,800	51,000	69,000	5,000
10		島田和子 様	24,700	6,300	55,000	86,000	5,000
11		鈴木信子 様	63,500	83,250	6,300	153,050	15,000
12		千葉俊子 様	26,000	7,050	69,000	102,050	10,000
13		富永明夫 様	9,100	70,000	6,900	86,000	5,000
14		中島喜枝 様	52,000	6,300	7,100	65,400	5,000
15		野口和美 様	5,100	6,500	73,000	84,600	5,000
16		福田佳雄 様	71,000	8,500	6,900	86,400	5,000
17		吉田直子 様	8,300	69,000	92,000	169,300	15,000

← VLOOKUP (TRUE)

3-2 関数について

関数について学習します。

【関数】とは、計算目的に合わせて定義されている数式のことです。Excelには400以上の関数が搭載されていて、複雑な四則混合演算や数式を設定する代わりに、計算範囲や処理を指定するだけで計算結果を得ることができます。

● 関数の形式

$$= \text{関数名} (\text{引数 1} , \text{引数 2} , \dots)$$

① ②

- ① 計算目的に合わせて、関数を選択します。
- ② 引数とは関数に必要な数値や条件などのことです。
カッコで囲み、各引数を「,(カンマ)」で区切って指定します。

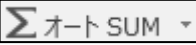
● 関数を手入力する

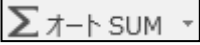
セルに直接関数を入力することができます。関数に必要な引数の内容を理解している場合は、直接入力した方が効率的な場合があります。

たとえば VLOOKUP 関数を手入力する場合、『 =v 』と関数の頭文字を半角で入力します。



下図のように、「V」から始まる関数名がリストに一覧表示されます。該当する関数名をダブルクリックして、セルに表示することができ、スペルミスなどを減らすことができます。


	A	B	C	D	E	F
13						
14		商品コード	商品名	単価	数量	金額
15		=v				
16			VALUE	文字列として入力されている数字を数値に変換します。		
17			VAR.P			
18			VAR.S			
19			VARA			
20			VARPA			
21			VDB			
22			VLOOKUP			
23			VAR		小計	¥0
24			VARP		消費税	
25					合計	¥0

●  (合計)ボタン

[ホーム]タブ-[編集]の  (合計)ボタンを利用すると、「SUM」「AVERAGE」「COUNT」「MAX」「MIN」などの初級で学習した関数を簡単に設定できます。引数が自動認識されるため、手入力するよりも効率的に設定できます。

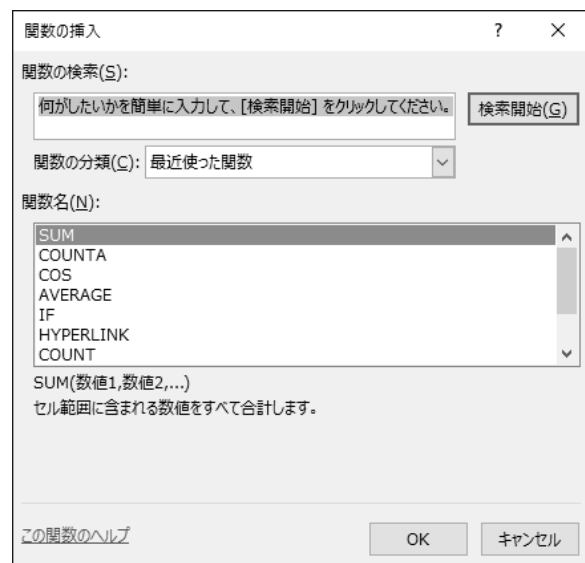
●  (関数の挿入)ボタン

[数式]バーの  (関数の挿入)ボタン、または[数式]タブ-[関数ライブラリ]の  (関数の挿入)ボタンを利用すると、ダイアログボックスを使って関数や引数を指定し、関数を入力できます。

中級では、[数式]バーの  (関数の挿入)ボタンを利用して、関数を入力しています。

◀関数の挿入▶ダイアログボックス

関数の分類と関数名を指定します。



◀関数の引数▶ダイアログボックス

関数の引数を指定します。



3-3 統計関数 — RANK.EQ —

指定したセル範囲内で該当する順位を表す RANK.EQ 関数を設定します。

操作 RANK.EQ 関数

指定した範囲内のデータの順位を求めます。

= RANK.EQ(数値, 参照, 順序)

- 引数


数値:	順位を求める数値、セルを指定
参照:	対象となるセル範囲を指定
順序:	順位を付ける方法を指定
0	降順(大きい順)で順位を返す(省略可能)
1	昇順(小さい順)で順位を返す

「順位」に「合計点」の高い順で順位を求めましょう。

手順1 セル(J4)をアクティブにします。


手順2 「数式」バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。

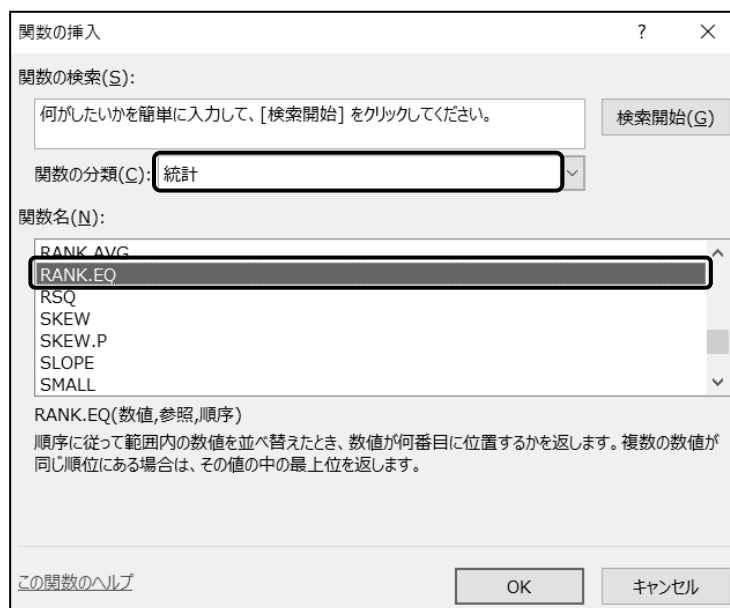
手順3 < 関数の挿入 > ダイアログボックスが表示されます。

「関数の分類」の  ボタンをクリックし、一覧から『統計』を選択します。

手順4 「関数名」の一覧から『RANK.EQ』を選択します。

※関数名はアルファベット順に並んでいます。

手順5  ボタンをクリックします。



手順6 ≪関数の引数≫ダイアログボックスが表示されます。

「数値」にカーソルが表示されていることを確認し、セル(I4)をクリックします。

手順7 「参照」にカーソルを移動し、セル(I4:I17)をドラッグします。

手順8 **F4** キーを押します。 ※ 絶対参照に設定され、「\$I\$4:\$I\$17」と表記されます。

手順9 **OK** ボタンをクリックします。

※ 降順で順位を求める場合は、「順序」を省略できます。



手順10 オートフィルを利用して、セル(J4)の数式をセル(J5:J17)へコピーします。

セル(J4)に「=RANK.EQ(I4,\$I\$4:\$I\$17)」と設定できました。選択を解除して「順位」の列に「合計点」の高い順で順位を求めることができたことを確認しましょう。

採用試験判定基準										
									実施日	
	受験番号	氏名	生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	
1										
2										
3										
4	M-101	安藤洋和	1997/5/1		65	71	65	201	11	
5	M-102	大場貴男	1995/6/24		82	69	71	222	6	
6	M-103	神田一郎	1995/10/4		83	70	61	214	8	
7	W-104	黒田正代	1996/8/8		65	83	79	227	4	
8	M-105	佐々木友彦	1992/7/30		91	79	73	243	2	
9	M-106	佐藤貞男	1997/4/28		85	98	51	234	3	
10	W-107	島田和子	1993/9/22		75	63	55	193	12	
11	W-108	鈴木信子	1993/5/1		66	83	63	212	9	
12	W-109	千葉俊子	1994/2/5		70	70	69	209	10	
13	M-110	富永明夫	1993/1/31		77	70	69	216	7	
14	W-111	中島喜枝	1991/11/15		51	63	71	185	14	
15	W-112	野口和美	1994/5/8		51	65	73	189	13	
16	M-113	福田佳雄	1995/7/25		71	85	69	225	5	
17	W-114	吉田直子	1992/9/3		83	69	92	244	1	
18	平均点					72.50	74.14	68.64	215.29	

One Point: 順位を求める関数

RANK.EQ 関数のほかに以下のような関数があります。

関数	数式
RANK.AVG	<p>=RANK.AVG(数値, 参照, 順序)</p> <p>指定した範囲内でデータの順位を返します。</p> <p>複数の数値が同じ順位にある場合は順位の平均を返します。</p> <p>例) 3位が2人いる場合 $(3\text{位} + 4\text{位}) \div 2 = 3.5\text{位}$ 次点が5位となります。</p>
RANK	<p>=RANK(数値, 参照, 順序)</p> <p>指定した範囲内でデータの順位を返します。</p> <p>RANK.EQ 関数と同じ目的で利用でき、関数の分類は「互換性」に属しています。Excel2007以前のバージョンと共有したい場合に利用します。</p>

3-4 論理関数 — IF・IFS・AND・OR —

指定した条件に基づいて、条件を満たす場合と満たさない場合の処理を返す IF 関数を設定します。

操作 IF 関数

指定した条件に基づいて、条件を満たす場合は「値が真の場合」で指定した値を、条件を満たさない場合は「値が偽の場合」で指定した値をそれぞれ返します。

= IF(論理式 , 値が真の場合 , 値が偽の場合)


- 引数 論理式: 真(TRUE)・偽(FALSE)を評価するための条件を指定
 値が真の場合: 論理式が真(TRUE)の場合に返す値を指定
 値が偽の場合: 論理式が偽(FALSE)の場合に返す値を指定
- ※ 「値が真の場合」「値が偽の場合」に設定する文字列は「” “”(ダブルクォーテーションで囲みます)。

※論理式には次のような比較演算子を使用します。

演算子	意味	使用例
=	左辺と右辺が等しい	A1=B1
>	左辺が右辺より大きい	A1>B1
<	左辺が右辺より小さい	A1<B1
>=	左辺が右辺以上	A1>=B1
<=	左辺が右辺以下	A1<=B1
<>	左辺と右辺が等しくない	A1<>B1

セル(K4)に、「合計点」が220点以上の場合は『優』、それ以外は『良』と表示されるようにIF関数を設定しましょう。


手順1 セル(K4)をアクティブにします。

手順2 [数式]バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。

手順3 ≪関数の挿入≫ダイアログボックスが表示されます。

「関数の分類」から『論理』を選択します。

手順4 「関数名」の一覧から『IF』を選択します。

手順5  ボタンをクリックします。

第3章 関数の利用

手順6 ≪関数の引数≫ダイアログボックスが表示されます。

「論理式」にカーソルが表示されていることを確認し、セル(I4)をクリックします。

手順7 『>=220』と入力します。 ※半角で入力します。

手順8 「値が真の場合」にカーソルを移動し、『優』と入力します。

手順9 「値が偽の場合」にカーソルを移動し、『良』と入力します。

※「優」の文字列に「 ” 」(ダブルコーテーション)が表示されます。

ダイアログボックスで引数を指定すると、ダブルコーテーションが自動的に表示されるため、入力を省略できます。

手順10 **OK** ボタンをクリックします。

関数の引数

IF

論理式 I4>=220 = FALSE

値が真の場合 "優" = "優"

値が偽の場合 良 =

論理式の結果 (真または偽) に応じて、指定された値を返します

値が偽の場合 には論理式の結果が偽であった場合に返される値を指定します。省略された場合、FALSE が返されます

数式の結果 =

この関数のヘルプ(H)


OK キャンセル

セル(K4)に「=IF(I4>=220,"優","良) 」と設定できました。

「合計点」が220点以上の場合は『優』、それ以外の場合は『良』と表示されるように設定できました。

採用試験判定基準										
									実施日	
受験番号	氏名	生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	
M-101	安藤洋和	1997/5/1		65	71	65	201	11	良	
M-102	大場貴男	1995/6/24		82	69	71	222	6		
M-103	神田一郎	1995/10/4		83	70	61	214	8		
W-104	黒田正代	1996/8/8		65	83	79	227	4		
M-105	佐々木友彦	1992/7/30		91	79	73	243	2		
M-106	佐藤貞男	1997/4/28		85	98	51	234	3		
W-107	鳥田和子	1993/9/22		75	63	55	193	12		
W-108	鈴木信子	1993/5/1		66	83	63	212	9		
W-109	千葉俊子	1994/2/5		70	70	69	209	10		
M-110	富永明夫	1993/1/31		77	70	69	216	7		
W-111	中島喜枝	1991/11/15		51	63	71	185	14		
W-112	野口和美	1994/5/8		51	65	73	189	13		
M-113	福田佳雄	1995/7/25		71	85	69	225	5		
W-114	吉田直子	1992/9/3		83	69	92	244	1		
平均点					72.50	74.14	68.64	215.29		

One Point: 関数の修正・削除

関数を修正する場合は、関数が設定されているセルをアクティブにし、[数式]バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。《関数の引数》ダイアログボックスが表示され、引数を修正することができます。

また、[数式]バーに表示される関数を直接編集することもできます。

関数を削除する場合は、設定されているセルをアクティブにし、  キーを押します。

操作 IFS 関数

複数の条件を順に調べ、1つ以上の条件が満たされるかを確認し最初の真の条件に対する値を返します。

= IFS(論理式 1, 値が真の場合 1, 論理式 2, 値が真の場合 2, ...)


● 引数 論理式 1: 真(TRUE)・偽(FALSE)を評価するための条件を指定

値が真の場合 1: 論理式 1 が真(TRUE)の場合に返す値を指定
偽(FALSE)の場合には論理式 2 を調べます。

※ 127 個まで組み合わせることができます。


セル(K4)の関数を消去して、「合計点」が220点以上の場合は『優』、200点以上の場合は『良』、それ以外の場合は『可』と表示されるように設定しましょう。

手順1 セル(K4)をアクティブにし、  キーを押して IF 関数を消去します。

手順2 [数式]バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。

手順3 《関数の挿入》ダイアログボックスが表示されます。
「関数の分類」から『論理』を選択します。

手順4 「関数名」の一覧から『IFS』を選択します。

手順5  ボタンをクリックします。

第3章 関数の利用

手順6 ≪関数の引数≫ダイアログボックスが表示されます。

「論理式1」にカーソルが表示されていることを確認し、セル(I4)をクリックします。

手順7 『>=220』と入力します。 ※半角で入力します。

手順8 「値が真の場合1」にカーソルを移動し、『優』と入力します。

手順9 「論理式2」にカーソルを移動し、『I4>=200』と入力します。

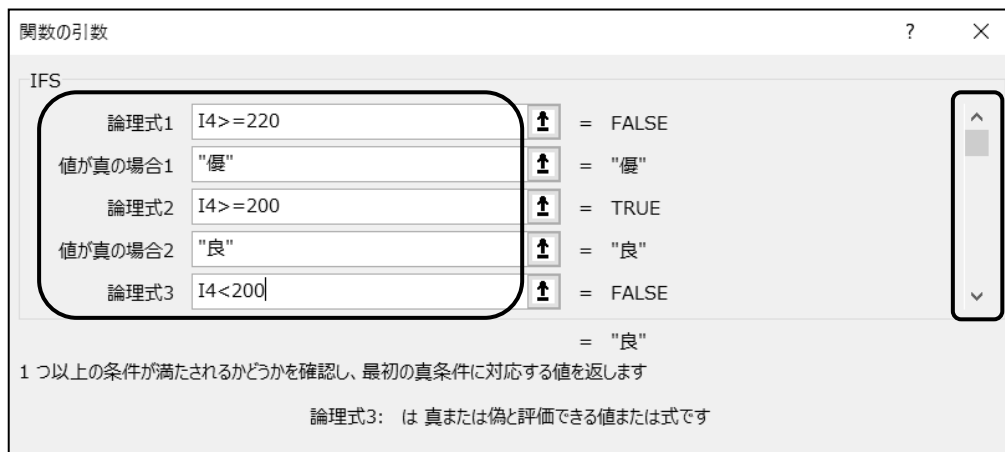
手順10 「値が真の場合2」にカーソルを移動し、『良』と入力します。

手順11 「論理式3」にカーソルを移動し、『I4<200』と入力します。

手順12 「値が真の場合3」にカーソルを移動し、『可』と入力します。

※ ボックスが見えない場合はダイアログボックスの右側にあるスクロールバーを使います。

手順13 **OK** ボタンをクリックします。



セル(K4)に「=IFS(I4>=220,"優",I4>=200,"良",I4<200,"可")」と設定できました。

セル(K4)の数式をセル(K5:K17)にコピーしましょう。

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
3	受験番号	氏名	生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1
4	M-101	安藤洋和	1997/5/1		65	71	65	201	11	良
5	M-102	大場貴男	1995/6/24		82	69	71	222	6	優
6	M-103	神田一郎	1995/10/4		83	70	61	214	8	良
7	W-104	黒田正代	1996/8/8		65	83	79	227	4	優
8	M-105	佐々木友彦	1992/7/30		91	79	73	243	2	優
9	M-106	佐藤貞男	1997/4/28		85	98	51	234	3	優
10	W-107	島田和子	1993/9/22		75	63	55	193	12	可
11	W-108	鈴木信子	1993/5/1		66	83	63	212	9	良
12	W-109	千葉俊子	1994/2/5		70	70	69	209	10	良
13	M-110	雷永明夫	1993/1/31		77	70	69	216	7	良
14	W-111	中島喜枝	1991/11/15		51	63	71	185	14	可
15	W-112	野口和美	1994/5/8		51	65	73	189	13	可
16	M-113	福田佳雄	1995/7/25		71	85	69	225	5	優
17	W-114	吉田直子	1992/9/3		83	69	92	244	1	優
18	平均点				72.50	74.14	68.64	215.29		

One Point: IF 関数と IF 関数のネスト

IFS 関数は Excel2016 から利用できる新しい関数です。これより以前のバージョンの Excel と共有したい場合は IF 関数をネストして数式を設定しなおします。ネストとは、関数式の中にさらに関数式を組み込んで設定する方法です。

セル(K4)に設定した「=IFS(I4>=220,"優",I4>=200,"良",I4<200,"可)」を IF 関数のネストした数式で書き直すと、「=IF(I4>=220,"優",IF(I4>=200,"良","可"))」となります。

さらに条件による表示数を増やしたい場合はネストした IF 関数の値が偽の場合の「可」の前に 3 つ目の IF 関数を組み込みます。

以下の数式は、合計点が 220 点以上であれば「優」、200 点以上であれば「良」、150 点以上であれば「可」、それ以外であれば「不可」と表示するように設定したものです。

「=IF(I4>=220,"優",IF(I4>=200,"良",IF(I4>=150,"可","不可")))」

操作 IF 関数と AND 関数や OR 関数のネスト

IF 関数の引数「論理式」に AND 関数や OR 関数をネストすると、複雑な条件判断が可能になります。

AND 関数 = AND(論理式 1, 論理式 2, ...)

指定した論理式をすべて満たす場合は真(TRUE)を返し、満たされない場合は偽(FALSE)を返します。

OR 関数 = OR(論理式 1, 論理式 2, ...)

指定した論理式のうち、どれか一つでも満たす場合は真(TRUE)を返し、すべて満たされない場合は偽(FALSE)を返します。

「判定2」のセルに「基礎知識」「専門知識」「実技」の各点数がすべて65点以上の場合は『合格』、それ以外の場合はセルに何も表示されないように設定しましょう。

手順1 セル(L4)をアクティブにします。

手順2 [数式]バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。

手順3 << 関数の挿入 >> ダイアログボックスが表示されます。



「関数の分類」から『論理』を選択します。

手順4 「関数名」の一覧から『IF』を選択します。

手順5  ボタンをクリックします。

手順6 << 関数の引数 >> ダイアログボックスが表示されます。

「論理式」にカーソルが表示されていることを確認します。

手順7  (関数) ボックスの  をクリックし、一覧から『その他の関数』を選択します。 ※ (関数) ボックスの一覧には、最近利用した関数名が10個表示されます。

利用したい関数名が表示されていない場合は、『その他の関数』を選択します。



手順8 ≪関数の挿入≫ダイアログボックスが表示されます。

「関数の分類」から『論理』を選択します。

手順9 「関数名」の一覧から『AND』を選択します。

※ IF 関数の「論理式」の引数に AND 関数がネストされます。

手順10 **OK** ボタンをクリックします。

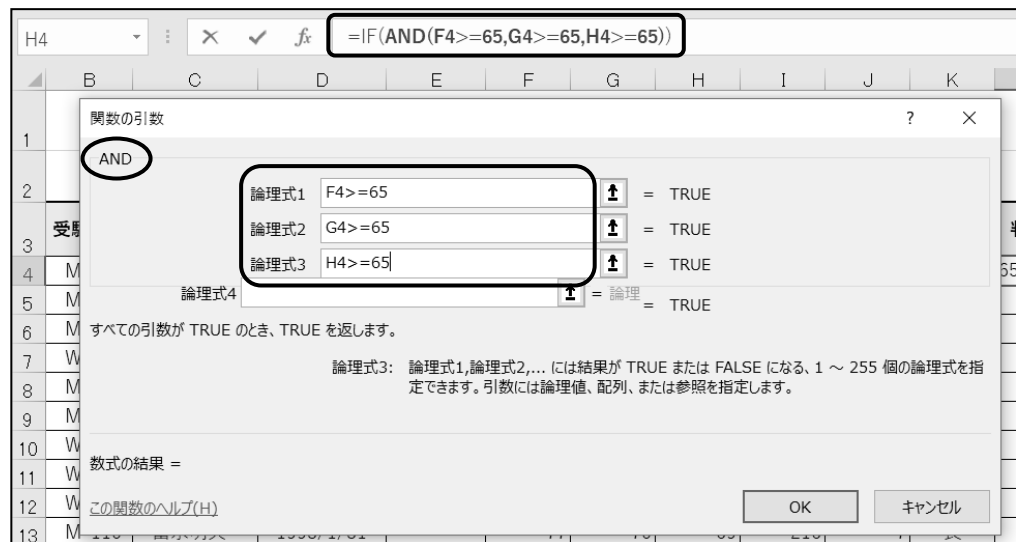
※ 数式バーに「=IF(AND())」と表示されます。

手順11 AND 関数の≪関数の引数≫ダイアログボックスが表示されます。

「論理式 1」にカーソルが表示されていることを確認し、『F4>=65』と入力します。

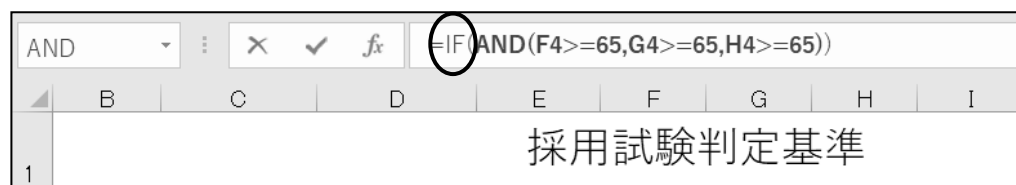
手順12 「論理式 2」にカーソルを移動し、『G4>=65』と入力します。

手順13 「論理式 3」にカーソルを移動し、『H4>=65』と入力します。



手順14 数式バーに表示されている IF 関数の「IF」の文字の上をクリックします。

※ IF 関数の≪関数の引数≫ダイアログボックスを開き、「値が真の場合」「値が偽の場合」の引数を設定するためです。



手順15 IF 関数の≪関数の引数≫ダイアログボックスが表示されます。

「論理式」に AND 関数が設定されていることを確認します。

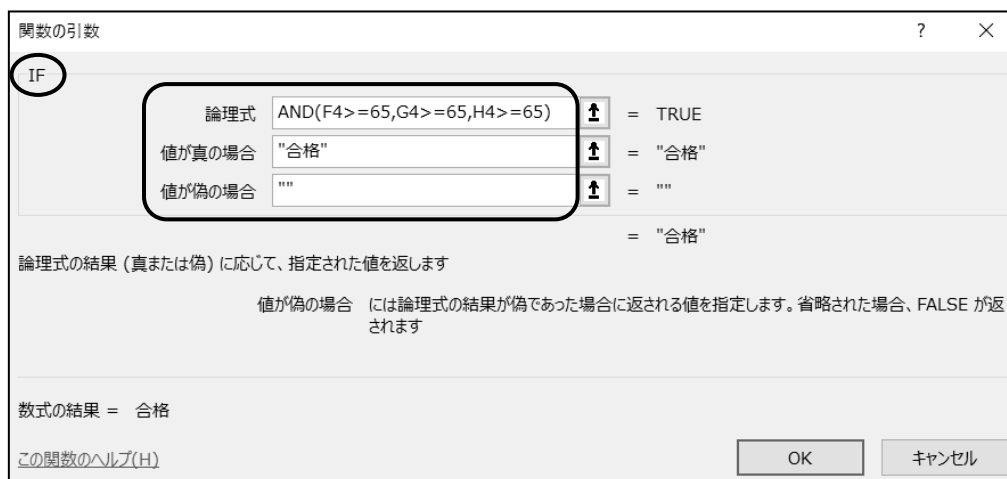
第3章 関数の利用

手順16 「値が真の場合」にカーソルを移動し、『合格』と入力します。

手順17 「値が偽の場合」にカーソルを移動し、『“ ”』(ダブルコーテーション2つ)を入力します。

※ 『“ ”』(ダブルコーテーション2つ)は「何も表示しない」場合の指定で、半角で入力します。

手順18 **OK** ボタンをクリックします。



セル(L4)に「=IF(AND(F4>=65,G4>=65,H4>=65),"合格","")」と設定できました。

セル(L4)の数式をセル(L5:L17)にコピーしましょう。

採用試験判定基準										
									実施日	
受験番号	氏名	生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	判定2
M-101	安藤洋和	1997/5/1		65	71	65	201	11	良	合格
M-102	大場貴男	1995/6/24		82	69	71	222	6	優	合格
M-103	神田一郎	1995/10/4		83	70	61	214	8	良	
W-104	黒田正代	1996/8/8		65	83	79	227	4	優	合格
M-105	佐々木友彦	1992/7/30		91	79	73	243	2	優	合格
M-106	佐藤貞男	1997/4/28		85	98	51	234	3	優	
W-107	島田和子	1993/9/22		75	63	55	193	12	可	
W-108	鈴木信子	1993/5/1		66	83	63	212	9	良	
W-109	千葉俊子	1994/2/5		70	70	69	209	10	良	合格
M-110	雷永明夫	1993/1/31		77	70	69	216	7	良	合格
W-111	中島喜枝	1991/11/15		51	63	71	185	14	可	
W-112	野口和美	1994/5/8		51	65	73	189	13	可	
M-113	福田佳雄	1995/7/25		71	85	69	225	5	優	合格
W-114	吉田直子	1992/9/3		83	69	92	244	1	優	合格
平均点				72.50	74.14	68.64	215.29			

One Point: OR 関数をネストした場合

IF 関数の引数「論理式」に OR 関数をネストした場合は、「基礎知識」「専門知識」「実技」の各点数のいずれかが 65 点以上の場合は『合格』、すべて 65 点未満の場合はセルに何も表示しないという判定結果になります。

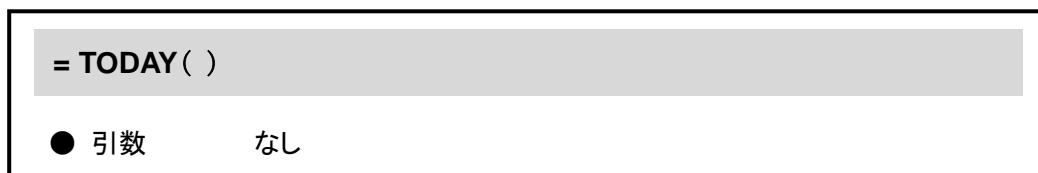
<数式例> =IF(OR(F4>=65 , G4>=65 , H4>=65) , "合格" , "")

3-5 日付関数 — TODAY・DATEDIF —

今日の日付を求める TODAY 関数や期間を求める DATEDIF 関数を設定します。

操作 TODAY 関数

現在の日付を返します。ブックを開くと、今日の日付に更新して表示します。



セル(K2)に常に今日の日付が表示されるように TODAY 関数を手入力で設定しましょう。

手順1 セル(K2)をアクティブにします。

手順2 半角で『 =to 』と入力します。

※ 「 to 」から始まる関数名が一覧されます。

E	F	G	H	I	J	K	L	M
採用試験判定基準								
					実施日	=to		
年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	TODAY	現在の
	65	71	65	201	11	良	合格	

手順3 「 TODAY 」が青く選択されていることを確認し、**Tab** キーを押します。

※ 「 TODAY 」をダブルクリックしても同じ操作です。。

手順4 『 =TODAY(』とセルに表示されます。引数はないため「) 』と入力し **Enter** キーを押します。 ※ 今日の日付が表示されます。

セル(K2)に「 =TODAY() 」と設定できました。

セル(K2)に今日の日付が「 ●●●●/●/● 」の形式で表示されました。

The screenshot shows the same spreadsheet as before, but now the cell K2 contains the date "2019/8/4". The formula bar at the top shows `=TODAY()`.

D	E	F	G	H	I	J	K	L
採用試験判定基準								
						実施日	2019/8/4	
生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	判定2
1997/5/1		65	71	65	201	11	良	合格

One Point: NOW 関数

現在の日付と時刻を返します。ブックを開くと、今日の日付、現在時刻に更新して表示します。ブックを開いた状態で現在時刻を更新したい場合は、**F9** キーを押します。

TODAY 関数同様、引数はありません。

= NOW()

● 引数 なし



The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

採用試験判定基準								
生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	判定2
1997/5/1		65	71	65	201	11	良	合格

The formula bar at the top shows **=NOW()**. The cell containing the date and time **2019/8/4 15:28** is circled in red.

操作 DATEDIF 関数

2つの日付の差を年数、月数、日数などで表示します。

= DATEDIF(開始日 , 終了日 , 単位)

- 引数
 - 開始日: 2つの日付のうち、開始日を指定します。
 - 終了日: 2つの日付のうち、終了日を指定します。
 - 単位: 期間の単位を指定します。(下図参照)

単位	内容	利用例	答
“ Y ”	期間内の満年数	=DATEDIF("2019/1/1","2020/4/15","Y")	1
“ M ”	期間内の満月数	=DATEDIF("2019/1/1","2020/4/15","M")	15
“ D ”	期間内の満日数	=DATEDIF("2019/1/1","2020/4/15","D")	469
“ YM ”	1年未満の月数	=DATEDIF("2019/1/1","2020/4/15","YM")	3
“ YD ”	1年未満の日数	=DATEDIF("2019/1/1","2020/4/15","YD")	104
“ MD ”	1ヶ月未満の日数	=DATEDIF("2019/1/1","2020/4/15","MD")	14

※DATEDIF 関数は「関数の挿入」ダイアログボックスの関数名の一覧にはないため、数式は手入力で設定します。

「年齢」のセルに「生年月日」から「実施日」までの経過年数を満年数で表示されるように設定しましょう。

手順1 セル(E4)をアクティブにします。

手順2 『 =DATEDIF(D4,\$K\$2,"Y") 』と入力します。 ※半角で入力します。

採用試験判定基準							実施日	
							2019/8/4	
氏名	生年月日		実技	合計点	順位	判定1	判定2	
藤洋和	1997/5/1	=DATEDIF(D4,\$K\$2,"Y")	65	201	11	良	合格	
易貴男	1995/6/24		71	222	6	優	合格	
田一郎	1995/10/4		61	214	8	良		

手順3 キーを押します。

セル(E4)に「=DATEDIF(D4,\$K\$2,"Y")」と設定できました。

「年齢」のセルに「生年月日」から「実施日」までの満年数を表示できました。

セル(E4)の数式をセル(E5:E17)にコピーしましょう。

採用試験判定基準										
								実施日	2019/8/4	
受験番号	氏名	生年月日	年齢	基礎知識	専門知識	実技	合計点	順位	判定1	判定2
M-101	安藤洋和	1997/5/1	22	65	71	65	201	11	良	合格
M-102	大場貴男	1995/6/24	24	82	69	71	222	6	優	合格
M-103	神田一郎	1995/10/4	23	83	70	61	214	8	良	
W-104	黒田正代	1996/8/8	22	65	83	79	227	4	優	合格
M-105	佐々木友彦	1992/7/30	27	91	79	73	243	2	優	合格
M-106	佐藤貞男	1997/4/28	22	85	98	51	234	3	優	
W-107	島田和子	1993/9/22	25	75	63	55	193	12	可	
W-108	鈴木信子	1993/5/1	26	66	83	63	212	9	良	
W-109	千葉俊子	1994/2/5	25	70	70	69	209	10	良	合格
M-110	富永明夫	1993/1/31	26	77	70	69	216	7	良	合格
W-111	中島喜枝	1991/11/15	27	51	63	71	185	14	可	
W-112	野口和美	1994/5/8	25	51	65	73	189	13	可	
M-113	福田佳雄	1995/7/25	24	71	85	69	225	5	優	合格
W-114	吉田直子	1992/9/3	26	83	69	92	244	1	優	合格
平均点				72.50	74.14	68.64	215.29			

3-6 検索/行列関数ー VLOOKUP ー

検索値で指定されたデータを参照表から検索し、対応する値を表示する VLOOKUP 関数を設定します。

シート「請求書」をアクティブシートにしましょう。

操作 VLOOKUP 関数

検索値で指定されたデータを参照表から検索し、対応する値を表示します。

= VLOOKUP(検索値 , 範囲 , 列番号 , 検索方法)

- 引数
 - 検索値: 検索のキーになるコードなどのデータを指定
 - 範囲: 参照する表の範囲を指定
 - 列番号: 参照する表の左からの列番号を指定
 - 検索方法: TRUE または FALSE を指定
 - TRUE 検索値の近似値を含めて検索 ※省略可
 - FALSE 完全一致のものだけを検索

A	B	C	D	E	F
ご請求書					
					発行日
株式会社町田事務機 御中					
				株式会社品川サプライ	
				東京都品川区大崎×-×-×	
				TEL 03-3000-0000	
				FAX 03-3000-0000	
下記の通りご請求申し上げます。					
				担当: 湊	
御請求額		¥2,445,000			
商品コード	商品名				
A-104	ノートパソコン				
C-302	スキャナー				
F-602	CD-RWドライブ		¥15,000	25	¥375,000
				小計	¥2,445,000
				消費税	
				合計	¥2,445,000

↑
検索値

参照表に対応した商品名を表示

<参照表>

A	B	C
商品一覧		
商品コード	商品名	単価
A-101	デスクトップパソコン	270000
A-102	デスクトップパソコン	250000
A-103	タブレット型パソコン	220000
A-104	ノートパソコン	330000
A-105	モバイルパソコン	280000
B-201	レーザープリンタ	79800
B-202	トナー	30000
B-303	インクリボン	2500
B-101	デジタルカメラ	50000
B-102	スキャナー	30000
C-303	マウス	1900
C-304	マウスパット	1000
C-305	キーボード	5000
D-401	コピー用紙(1ケース)	3000
E-501	LANカード	30000
E-502	LANケーブル1m	1000
E-503	LANケーブル3m	1200


↑
列番号 1

↑
列番号 2

↑
列番号 3


シート「請求書」の「商品コード」を入力すると、対応する「商品名」が表示されるように関数を設定しましょう。「商品コード」と「商品名」の参照はシート「商品一覧」の表から検索しましょう。

手順1 シート「請求書」のセル(C15)をアクティブにします。

手順2 [数式]バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。


手順3 <関数の挿入>ダイアログボックスが表示されます。
「関数の分類」から『検索／行列』を選択します。

手順4 「関数名」の一覧から『VLOOKUP』を選択します。

手順5  ボタンをクリックします。

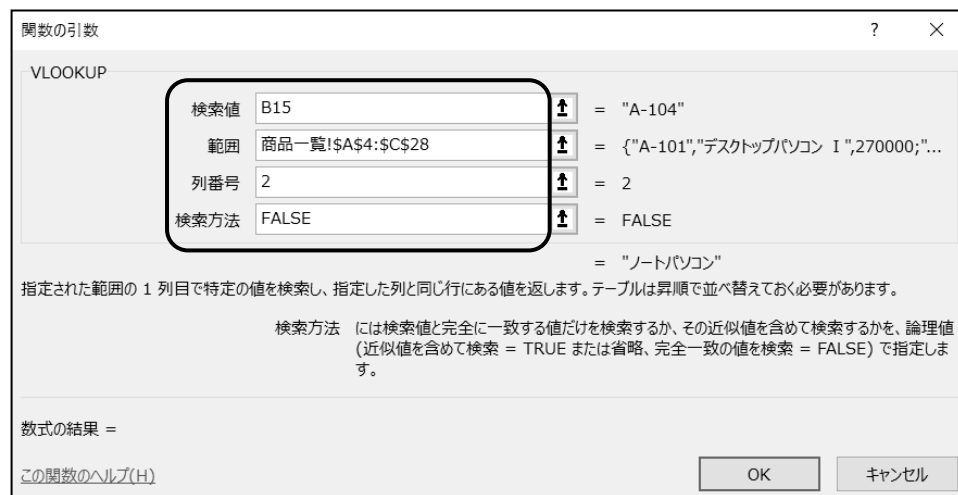
手順6 <関数の引数>ダイアログボックスが表示されます。
「検索値」にカーソルが表示されていることを確認し、セル(B15)をクリックします。


手順7 「範囲」にカーソルを移動し、シート「商品一覧」のセル(A4:C28)をドラッグします。

手順8  キーを押します。 ※絶対参照にします。

手順9 「列番号」にカーソルを移動し、『2』と入力します。
※ 「商品一覧」の表の2列目のデータを表示するという意味です。

手順10 「検索方法」にカーソルを移動し、『FALSE』と入力します。
※ 半角で入力します。『FALSE』の代わりに『0』と入力することもできます。



手順11  ボタンをクリックします。

第3章 関数の利用

セル(C15)に「=VLOOKUP(B15,商品一覧!\$A\$4:\$C\$28,2,FALSE)」と設定できました。
シート「請求書」の「商品コード」を入力すると、対応する「商品名」が表示されるように設定できました。「商品コード」が入力されていないため、エラー「#N/A」が表示されます。

	A	B	C	D	E	F
14		商品コード	商品名	単価	数量	金額
15			#N/A			
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22					小計	¥0
23					消費税	¥0
24					合計	¥0
25						

操作 VLOOKUP 関数と IF 関数のネスト

VLOOKUP 関数と IF 関数をネストして、「商品コード」が入力されていない場合でも、「商品名」にエラーが表示されないように設定します。

「商品コード」が入力されていない場合はセルを空白表示にし、「商品コード」が入力された場合は、「商品名」が表示されるように関数を修正しましょう。

手順1 セル(C15)をアクティブにし、[数式]バーの『 = 』の後ろをクリックします。

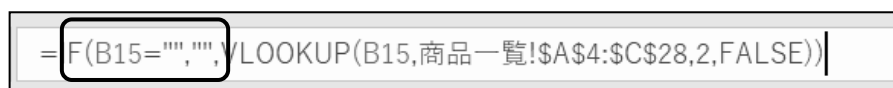


手順2 『 IF(B15="", "",)』と入力します。

※数式は半角で入力します。アルファベットは大文字／小文字どちらでも可。

※「 ” 」(ダブルコーテーション)は空白という意味です。

手順3 『 FALSE) 』の後ろをクリックし、『) 』と入力します。




手順4 **Enter** キーを押します。

セル(C15)に「=IF(B15="", "", VLOOKUP(B15, 商品一覧!\$A\$4:\$C\$28, 2, FALSE))」と設定できました。「商品コード」が入力されていない場合は、セルを空白表示にし、「商品コード」が入力された場合は、対応する「商品名」を表示するように設定できました。
エラー「#N/A」が非表示になったことを確認しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G
14		商品コード	商品名	単価	数量	金額	
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22					小計	¥0	
23					消費税	¥0	
24					合計	¥0	
25							

オートフィルを利用して、セル(C15)の数式をセル(C16:C21)へ書式なしでコピーしましょう。

手順1 セル(C15)の数式をオートフィルを利用してセル(C21)までドラッグします。

手順2 ドラッグした後に表示される  (オートフィルオプション) をクリックし、[書式なしコピー] をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G
14		商品コード	商品名	単価	数量	金額	
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22					小計	¥0	
23					消費税	¥0	
24					合計	¥0	
25							
26							

以下の通りデータを入力しましょう。※D列の「単価」には、あらかじめ関数が設定されています。

	商品コード		数量
セル(B15)	A-104	セル(E15)	6
セル(B16)	C-302	セル(E16)	3
セル(B17)	F-602	セル(E17)	25

	A	B	C	D	E	F
11					担当：湊	
12		御請求額	¥2,445,000			
13						
14		商品コード	商品名	単価	数量	金額
15		A-104	ノートパソコン	¥330,000	6	¥1,980,000
16		C-302	スキャナー	¥30,000	3	¥90,000
17		F-602	CD-RWドライブ	¥15,000	25	¥375,000
18						
19						
20						
21						
22					小計	¥2,445,000
23					消費税	
24					合計	¥2,445,000
25						

成績一覧 | 請求書 | 商品一覧 | 顧客管理 | (+)

One Point: IFERROR 関数

=IFERROR(値 , エラーの処理)

- 引数
 - 値 : 数式や関数、文字列などを指定
 - エラーの処理: エラーの時に返す値を指定

IFERROR 関数を使ってエラー値を回避する数式を設定できます。

セル(C15)に設定した「=IF(B15="", "", VLOOKUP(B15, 商品一覧!\$A\$4:\$C\$28, 2, FALSE))」を IFERROR 関数に置き換えると
 「=IFERROR(VLOOKUP(B15, 商品一覧! \$A\$4:\$C\$28, 2, FALSE), "")」と設定できます。

シート「顧客管理」をアクティブにしましょう。

操作 検索方法 TRUE

VLOOKUP 関数の引数「検索方法」に「TRUE」を指定すると、検索値の近似値を含めた検索結果を返すことができます。「検索値」に一定の幅を指定したい場合に設定します。

「検索方法」に「TRUE」を指定する場合は、参照表の 1 列目(検索のキーになるデータ)を昇順で作成します。

50,000未満は「#N/A」のエラー

50,000以上100,000未満
100,000以上150,000未満
150,000以上200,000未満
200,000以上

買上額	金券額
50,000	5,000
100,000	10,000
150,000	15,000
200,000	20,000

シート「顧客管理」の G 列「金券額」に「買上額」に対応した「金券額」が表示されるように関数を設定しましょう。


手順1 セル(G4)をアクティブにします。

手順2 [数式]バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。

手順3 ≪関数の挿入≫ダイアログボックスが表示されます。

「関数の種類」から『検索/行列』を選択します。


手順4 「関数名」の一覧から『VLOOKUP』を選択します。

手順5  ボタンをクリックします。

手順6 ≪関数の引数≫ダイアログボックスが表示されます。

「検索値」にカーソルが表示されていることを確認し、セル(F4)をクリックします。

手順7 「範囲」にカーソルを移動し、セル(I4:J7)をドラッグします。

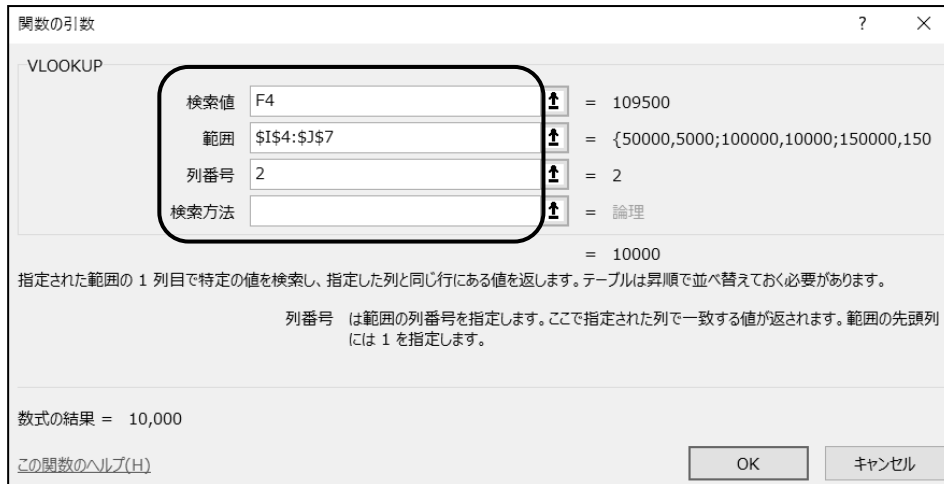
手順8  キーを押します。 ※絶対参照にします。

手順9 「列番号」にカーソルを移動し、『2』と入力します。

※「検索方法」は『TRUE』にする場合、省略できます。

第3章 関数の利用

手順10 **OK** ボタンをクリックします。



セル(G4)に「 =VLOOKUP(F4,\$I\$4:\$J\$7,2) 」と設定できました。
 「G」列に「 買上額 」に対応した「 金券額 」を表示するように設定できました。
 セル(G4)の数式をセル(G5:G17)へ書式なしでコピーしましょう。

顧客管理								
お名前	10月	11月	12月	買上計	金券額	買上額	金券額	
安藤洋和 様	32,000	71,000	6,500	109,500	10,000	50,000	5,000	
大場貴男 様	28,000	6,900	71,000	105,900	10,000	100,000	10,000	
神田一郎 様	13,000	7,500	61,000	81,500	5,000	150,000	15,000	
黒田正代 様	62,000	83,500	7,900	153,400	15,000	200,000	20,000	
佐々木友彦 様	5,400	79,000	7,300	91,700	5,000			
佐藤貞男 様	8,200	9,800	51,000	69,000	5,000			※お買い上げ額に応じて、 金券を差し上げています。
島田和子 様	24,700	6,300	55,000	86,000	5,000			
鈴木信子 様	63,500	83,250	6,300	153,050	15,000			
千葉俊子 様	26,000	7,050	69,000	102,050	10,000			
富永明夫 様	9,100	70,000	6,900	86,000	5,000			
中島喜枝 様	52,000	6,300	7,100	65,400	5,000			
野口和美 様	5,100	6,500	73,000	84,600	5,000			
福田佳雄 様	71,000	8,500	6,900	86,400	5,000			
吉田直子 様	8,300	69,000	92,000	169,300	15,000			

3-7 数学/三角関数— ROUND —

数値を四捨五入して指定された桁数で表示する ROUND 関数を設定します。

シート「請求書」をアクティブにしましょう。

操作 ROUND 関数

数値を四捨五入して指定された桁数にします。

= ROUND(数値 , 桁数)

- 引数

数値:	四捨五入の対象となる数値を指定
桁数:	数値を四捨五入した結果の桁数を指定

桁数に正の数を指定して、小数点以下の桁数を調整することができます。

たとえば桁数を「1」と指定すると、小数点以下第2位を四捨五入して、セルに小数点第1位までのデータを表示します。桁数を「0」と指定すると、小数点以下第1位を四捨五入して、セルに整数のデータを表示します。




また、桁数に負の数を指定して、整数の表示を調整することができます。

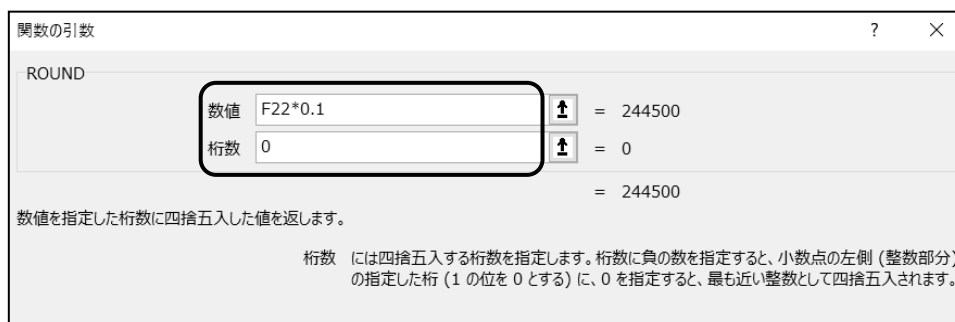
たとえば桁数を「-1」と指定すると、整数1の位を四捨五入して、セルに表示します。

下記の表を参考にしましょう。

桁数	数値	セルの表示	説明
1	2.15	2.2	小数点以下第2位を四捨五入して第1位までにする。
0	2.15	2	小数点以下第1位を四捨五入して整数にする。
2	-1.475	-1.48	小数点以下第3位を四捨五入して第2位までにする。
-1	29.5	30	整数第1位を四捨五入する。

ROUND 関数を使用して、消費税(10%)が整数で表示されるよう小数点以下を四捨五入しましょう。

- 手順1 セル(F23)をアクティブにします。
- 手順2 「数式」バーの  (関数の挿入) ボタンをクリックします。
- 手順3 «関数の挿入»ダイアログボックスが表示されます。
「関数の分類」から『数学/三角』を選択します。
- 手順4 「関数名」の一覧から『ROUND』を選択します。
- 手順5  ボタンをクリックします。
- 手順6 «関数の引数»ダイアログボックスが表示されます。
「数値」にカーソルが表示されていることを確認し、セル(F22)をクリックします。
- 手順7 『 *0.1 』と入力します。 ※半角で入力します。
- 手順8 「桁数」にカーソルを移動し、『 0 』と入力します。
- 手順9  ボタンをクリックします。



セル(F23)に「=ROUND(F22*0.1,0)」と設定できました。
消費税が整数で表示されるように設定できました。

F23					
A	B	C	D	E	F
11				担当：湊	
12	御請求額	¥2,689,500			
14	商品コード	商品名	単価	数量	金額
15	A-104	ノートパソコン	¥330,000	6	¥1,980,000
16	C-302	スキャナー	¥30,000	3	¥90,000
17	F-602	CD-RWドライブ	¥15,000	25	¥375,000
18					
19					
20					
21					
22				小計	¥2,445,000
23				消費税	¥244,500
24				合計	¥2,689,500

One Point: その他の端数処理できる関数

ROUNDUP 関数 = ROUNDUP(数値 , 桁数)

数値を切り上げて指定された桁数にします。
桁数の指定の方法は ROUND 関数と同じです。

ROUNDDOWN 関数 = ROUNDDOWN(数値 , 桁数)

数値を切り捨てて指定された桁数にします。
桁数の指定の方法は ROUND 関数と同じです。

INT 関数 = INT(数値)

数値が整数となるように切り捨てます。

ファイル名「第3章完成」で「Excel2019 中級」フォルダーに保存しましょう。

3-8 第3章の復習

第3章で学習した内容を復習しましょう。

● ブック「第3章復習」を開き、下記の設問に沿って操作を行いましょ。

- シート「売上実績」のセル(F5)にE列「売上合計」の高い順で順位が表示されるよう関数を設定しましょう。設定後、セル(F5)の数式をセル(F6:F22)にコピーしましょう。
- セル(G5)にセル(E5)の「売上合計」が2000以上なら『A』、1500以上なら『B』、1000以上なら『C』と表示し、1000未満なら空白となるよう関数を設定しましょう。設定後、セル(G5)の数式をセル(G6:G22)にコピーしましょう。
- セル(H5)にセル(C5)の「個人」またはセル(D5)の「法人」のどちらか一方が1000以上なら『達成』と表示し、どちらも1000未満なら空白となるよう関数を設定しましょう。設定後、セル(H5)の数式をセル(H6:H22)にコピーしましょう。
※ IF関数にOR関数をネストします。【73ページ、75ページ One Point 参照】
- セル(B2)にセル(G2)の前回締日から今日まで何日経過しているか、満日数を求める関数を設定しましょう。 ※今日の日付は TODAY 関数を利用しましょう。
- シート「発注書」のセル(G3)に今日の日付を求め、『令和〇年〇月〇日(曜日)』と表示されるように表示形式を変更しましょう。
※ 今日の日付は、ブックを開くたびに常に今日の日付に更新して表示されるようにします。
※ 表示形式の曜日は(月)や(火)と表示されるようにします。
- セル(C13)にセル(B13)の「商品コード」に対応する商品名が表示されるよう関数を設定しましょう。商品コードと商品名の参照はシート「商品マスター」の表から検索し、商品コードが入力されていない状態でもエラーが表示されないようにしましょう。
- セル(C13)の数式を、セル(C14:C19)に書式なしでコピーしましょう。
- セル(E13)にセル(B13)の「商品コード」に対応する単価が表示されるよう関数を設定しましょう。商品コードと単価の参照はシート「商品マスター」の表から検索し、商品コードが入力されていない状態でもエラーが表示されないようにしましょう。
- セル(E13)の数式を、セル(E14:E19)に書式なしでコピーしましょう。
- 以下のデータを入力しましょう。

	商品コード		数量
セル(B13)	GD102	セル(F13)	55
セル(B14)	GD105	セル(F14)	75

- セル(G21)に値引額を求めましょう。
値引額は整数となるように、端数を四捨五入する関数で設定しましょう。
- ファイル名「第3章復習完成」で「Excel2019 中級」フォルダーに保存しましょう。

<完成例>

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	売上実績							
2	経過日数	65			前回締日	6月1日		
3	単位：千円							
4	氏名	支店名	個人	法人	売上合計	順位	評価1	評価2
5	青木 隆	東京本社	158	1,430	1,588	7	B	達成
6	石井 哲郎	仙台支店	125	384	509	18		
7	江川 達也	大阪支店	210	1,802	2,012	3	A	達成
8	大木 宏	東京本社	1,350	259	1,609	6	B	達成
9	加藤 信吾	仙台支店	180	449	629	16		
10	佐々木 明子	名古屋支店	155	855	1,010	13	C	
11	田中 洋介	東京本社	1,450	2,360	3,810	1	A	達成
12	土田 淳史	東京本社	820	205	1,025	12	C	
13	橋本 広美	大阪支店	245	1,680	1,925	4	B	達成
14	古田 隆弘	大阪支店	1,320	195	1,515	8	B	達成
15	本多 博	名古屋支店	258	540	798	14		
16	真鍋 玲子	東京本社	241	1,540	1,781	5	B	達成
17	溝口 寛人	名古屋支店	165	450	615	17		
18	向井 陽子	仙台支店	175	480	655	15		
19	森田 聡	東京本社	1,600	1,058	2,658	2	A	達成
20	山口 愛子	大阪支店	450	580	1,030	11	C	
21	吉沢 治	名古屋支店	180	1,300	1,480	9	C	達成
22	渡辺 康平	東京本社	780	560	1,340	10	C	
23	<div style="display: flex; justify-content: space-between; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;"> 売上実績 発注書 商品マスター + </div>							

関数の入力例

問 1 : =RANK.EQ(E5,\$E\$5:\$E\$22)

問 2 : =IFS(E5>=2000,"A",E5>=1500,"B",E5>=1000,"C",E5<1000,"")

問 3 : =IF(OR(C5>=1000,D5>=1000),"達成","")

問 4 : =DATEDIF(G2,TODAY(),"D")

第3章 関数の利用

	A	B	C	D	E	F	G
1	発 注 書						
2							
3						発行日	令和1年8月5日(月) ← TODAY
4							
5		高橋商事 株式会社		御中		株式会社 飯田事務用品卸販売	
6						文具部門 営業部	
7						〒123-4567	
8	金額		308,372	円也		東京都千代田区神田×-×	
9						tel	03-1234-0000
10						fax	03-1234-0001
11							
12		商品コード	商品名	単価	数量	金額	
13		GD102	DVD-R 100枚	2,800	55	154,000	
14		GD105	ディスク研磨剤	2,700	75	202,500	← IF・VLOOKUP
15							
16							
17							
18							
19							
20					小 計	356,500	
21					値引額 (13.5%)	48,128	← ROUND
22					合計金額	308,372	
23							

関数の入力例

問 5 : =TODAY() 表示形式『 ggge"年"m"月"d"日"(aaa) 』

問 6 : =IF(B13="", "", VLOOKUP(B13, 商品マスター!\$B\$3:\$D\$8, 2, FALSE))

問 8 : =IF(B13="", "", VLOOKUP(B13, 商品マスター!\$B\$3:\$D\$8, 3, FALSE))

問 11 : =ROUND(G20*0.135, 0)